

# 手話サークル研究班

～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月。9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2010年1月現在、川崎2、横浜5、県域11 計18名で活動中!!

～ '09 神通研集会報告③ ～

「サークルに規約・会則がありますか？  
それに沿った活動がなされていますか？」

<第3グループ>

- ・会則はない。総会時に会員で相談して決める。手話を教わる場所ではなく、交流の場である。
- ・サークルの目的は、「ろう文化」を学ぶ場。ろう者の生活に基づいた自然な手話を学ぶ場。
- ・会則はある。ろう者と交流して理解を深めることが目的。
- ・ろう協非会員は、遠慮してもらっている。
- ・指導は、ろう協会員。運営は、健聴者。

## 明けまして おめでとうございます

2010年が始まりました。

手話を始めたばかりのころ、なかなか伝えたい手話表現ができず、心細くなっていたときに未熟な手話を読み取ってくれ、ゆっくりはっきりした手話で表し、やさしくフォローしてくれた聴こえない人たちがいました。

一度お会いしただけなのに、別の場所で顔を合わせた時に、話しかけてきてくれた聴こえない人たちがいました。

今年もそんなすてきな人たちと出会える、笑いに溢れたサークルになりますように!!

今年もよろしくお願ひします。

「手話サークル研究班」一同

